



## 中国のある老人ホーム

現代中国の高齢化社会を俗に「421 社会」といいます。「1 人の子供と 2 人の夫婦、4 人の老人」という典型的な家庭構造から生まれた言葉です。およそ 2 億人の老人の面倒を少ない家族だけで看ることができるのでしょうか。

また、仕事の関係で親子が離れた場所に住むケースが多く、老夫婦二人きり、あるいは独居老人などが増えていますし、年金がない貧困層の老人達も数多くいます。彼らの多くは老後の生活に深刻な不安を抱えているに違いありません。

日本の高齢者は、経済力と健康面を考慮し、自ら老人ホームや養老施設に入居するケースが多く見られますが、中国の老人は好んで養老院に入ることが少ないです。それは恐らく儒教の影響により、子供が親の面倒を最後まで見るべきという観念が根強く、親を養老院に入居させることは、世間から親不孝な行為だと思われ、子が笑われる恐れがあるからでしょう。また、養老院で老人が虐待を受ける事例も少なくありません。

以上を踏まえて、現在中国で話題になっている幸せに過ごせる養老院のことを少し紹介しましょう。

それは「渤海双缘安養院」といい、中国河北省沧州市塩山县城韓橋村（北京から約 380 キロ）にあります。

この養老院のミッションは「包容・尊重・慈悲」です。単に入居者に食住を提供するだけではなく、人間として生きる楽しみを忘れず、安らかに老後生活を送れる終の棲家であるよう願っているそうです。



当施設は現地の慈善家である張愛農居士による1.4億元（約23.8億円、以下も1元＝17円で換算）の寄付金で建設されています。「居士」とは、仏道修行に励む在家の男子のことを指します。

140畝（ムー、約7.5ヘクタール）の土地に養老院を建設し、また近くに順徳老人病院や浄土宗弘願念仏堂などを建設したそうです。その周辺に300畝の畑があり当施設のための有機野菜を栽培しています。張居士の願いは金儲けではなく、社会の負担を軽減し、同世代の方々の代わりに親孝行をすると同時に、自分の善行を積みたいということです。

既に1期目の工事が終わり、2棟の6階建ての施設（エレベータ付）が完成。ベッド数は合計350床。入居者の好みに合わせ、ベジタリアン料理も、普通食も両方用意しているそうです。

2015年10月に仮営業が始まりました。

施設で働く従業員の募集条件は、25～50歳で仏教を信じる方、宿泊費は無料、三食は無料かつ有機野菜が食べられる（前述の畑で栽培されたもの）、毎月の基本給は2,000元（約34,000円）で、社会保障（年金、医療保険、失業保険）も完備。

また、一部の居士がボランティアで従業員の仕事をサポート。従業員と一緒に介助者としての専門訓練を受け、入居者の世話から心のケアまで気持ちよく接することを目指しているそうです。

当施設では入居に関する制限は一切ありません。生活が自立できる方、介助に頼り生活する方、病気や後遺症で自立できない方でも、看護専門の係が24時間いるため、安心して入居できます。

入居費用に関して、一番安い料金プランは宿泊費+食費、毎月 1,200 元（約 20,400 円）です。年金がない貧困な老人でも安心して住んでもらうため、張居士が以下の案を提出したそうです。

日々‘南無阿彌陀佛’（なむあみだぶつ）を唱える方にはご褒美として、1 万回は 200 元（約 3,400 円）、3 万回は 500 元（約 8,500 円）、5 万回は 1,000 元（約 17,000 円）を毎月あげるそうです。そして、継続する方には、さらにシーズンごとに、年ごとにご褒美をあげる予定だそうです。こうすれば、入居費用の負担がほぼ無くなると言えるでしょう。

当施設は長く運営し続けるため、一律無料にはしていませんが、念仏往生を真剣に考えている高齢者や経済面に困っている人にも、いろいろな手助け方法を考えているそうです。例えば、掃除当番や念仏の回数の記録担当などに対し、手当てを支給するなどの仕組みです。

仮営業が続いている現在、多くの入居者が海南、重慶、上海、北京、天津、東北などから来ています。

入居した現地出身のある女性は、ダンスや文芸活動に没頭する日々を送っています。また、美味しい食事や施設の衛生管理にも満足しています。彼女は介助者やボランティアの人達といつでも会話できるこの施設に居る方が楽しいので、此処こそが自分の本来の家と思い定め、旧正月や国慶節などの大型休暇にお子さんたちから誘われた自宅への招待を断ったそうです。



中国の養老院でよく見られる光景は、入居者が従業員に傲慢な態度を取り怒鳴るとか、逆に従業員が入居者をいじめるとか、あるいは入居者同士の喧嘩とか、従業員が経営者に不満を持つなど、様々な問題が起こりますが、当施設ではそのような光景が見られません。何故なら、従業員の多くは仏教を信仰しているので、給料の為だけに働くのではなく、慈愛の心を持ちながら日々入居者に奉仕する考え方でいるからだそうです。

一方、多くの入居者が毎日何万回も念仏を唱えるので喧嘩する暇もなく、家族に対する不平不満もなくなり、死や老衰に対する不安や恐怖もなくなり、次第に気持ちも表情も明るくなっていくようです。しかも有機野菜をふんだんに摂取しているおかげで、当施設の老人には加齢臭がなく、皆様とても穏やかに過ごされているそうです。

当施設では、常に 30 数名の居士がボランティアとして、入居者と一緒に念仏を唱えています。また、入居者の臨終の際に、安らかに極楽世界へ行けるよう居士達が「別時念仏（臨終の念仏を説くこと）」をして送り出すそうです。

より多くの老人に当施設を知ってもらうため、最近特別キャンペーンを打ち出しました。65 歳以上であれば無料で 1 ヶ月間の入居体験サービスを受けられるとのこと。宿泊費、食費、介護費用、冬の床暖房費用などは全て無料です。しかも毎日念仏堂の法師達に見守られ、仏教に関する教えも受けられ、念仏を唱えることも一緒に体験できます。まるで一ヶ月修行体験とも言えますね。

当施設はまだ正式にオープンしていませんが、中国のメディアでも報道され、国内各地でなく、海外からも多数の視察者が訪れています。

今後も当施設で生活する老人達の幸せを願って関心を持ち続けたいです。